

武漢事務所便り週間新聞記事報告 2010.07.24 - 2010.07.30 16号

7月29日付け 中国ラジオネット北京より

春秋航空が上海浦東空港から日本の茨城空港への便を昨日初めて開始し、中国国民営航空にとって、最初の国際コースとなり、中国航空業界の「国際線ブーム」の新たなページを開いた。

春秋航空は低運賃政策を国際線にも適用し、上海から茨城まで飛行機利用後、また専用車による東京までの旅行価格は約1900元(税込)である。他社の直航便の国際線航空券は最低1990元である。「茨城コースは現在、チャーター機を主にし、残りコースは自由旅行として販売する。しかし、8月の月曜日の往復に限定されている」と春秋航空のスタッフが話した。

実際、春秋航空の国際線定期航路の正式審査がまだ通過しておらず、臨時航路を借りてチャーター便を運航させている。

民営の吉祥航空も「今年、国際線を就航させる」と以前話したことがある。首都航空も積極的に計画しているところである。南方航空は広州発の国際線を5年前の毎週194便から、毎週496便までに増便させた。鄒建軍氏が「国際便ブーム」の原因は「高速鉄道が続々敷設され、ネットのように各地を繋げていく。このような状況で、コストがかかる短期航路はいずれ廃止される可能性がある。今後の発展方向は2つしかない。国内便の長距離線、国際線である」と話した。

7月29日付け 楚天都市報より

7月19日、武漢市レール1号線2期工事は国の専門家らの検査を受け、給電、信号通信、消防、リスク源のコントロール、運賃などに対して、全般的な「テスト」が行われ、「工事品質の検査に合格し、運営準備が十分にあることによって、試運行の許可が認められる」と判断された。計画によると、1号線2期は今月28日に運営開始される。

轻轨 1 号线线路图



1 号線 2 期は西段と東段から構成され、1 期工区間から両方向へ延長線させ、長さは 18.7 km である。西段は宗関から東西湖区の東吳大通まで、東段は黄浦路から堤角までであり、舵落口建設材料センター、武漢広場商圈、古田及び百歩亭などの住宅団地を經由し、漢口を横断する鎮内線となっている。

全部で 26 カ所の駅が設置されている。東吳大道駅、五環大道駅、竹葉海駅、舵落口駅、古田 1 路駅、古田 2 路駅、古田 3 路駅、古田 4 路駅、漢西 1 路駅、宗関駅、太平洋駅、舵落口路駅、崇仁路駅、利濟北路駅、友誼路駅、江漢路駅、大智路駅、三陽路駅、黄浦路駅、頭道街駅、二七路駅、徐州新村駅、丹水池駅、新栄村駅、堤角駅。沿路は東西湖区、古田区、王家墩 CBD、後湖エリアとの 4 大区域に跨る。

地下鉄グループ会社の話によると、1 号線の全線において、全自動運転機能を利用し、コンピューター指示による無人運転ができる。出発或いは交差レールの際、列車は自動的に方向を選択できる。運行中、時刻表に基づき、自動的に速度の加減をコントロールし、各駅に時間通りに到着する。緊急事態に際して、列車は自動ブレーキをかけて、安全区域で止まる。駅に到着すると、定められた場所に止まり、乗降位置に合わせて、終点に到着後、自動的に折り返す。

武漢の 1 号線は中国国内で、初めての全自動運転システムを採用する。